

## 歴史的建造物等全体整備計画

都市整備部公園緑地課

## 1 経緯

刈谷市では、歴史的に貴重な財産を継承することにより、未来を担う子どもたちに刈谷市への愛着や誇りを育んでいただくとともに、夢や魅力があふれる刈谷市の創造へと繋がるものとして、亀城公園を歴史や文化を感じることのできる空間へと再整備する中で、刈谷城の復元整備を進めています。

今年度は、平成 25 年 3 月に策定した「亀城公園歴史的建造物等基本計画」や平成 21 年度から 26 年度に実施された発掘調査によって、その配置や構造などが明らかになってきたことから、刈谷城に関する基本設計を行いました。

## 2 設計概要

- (1) 設計施設：刈谷城
- (2) 主な内容：辰巳櫓、多門櫓、表門、裏門、石垣、土塀の基本設計
- (3) 設計箇所：亀城公園（城町 1 丁目）

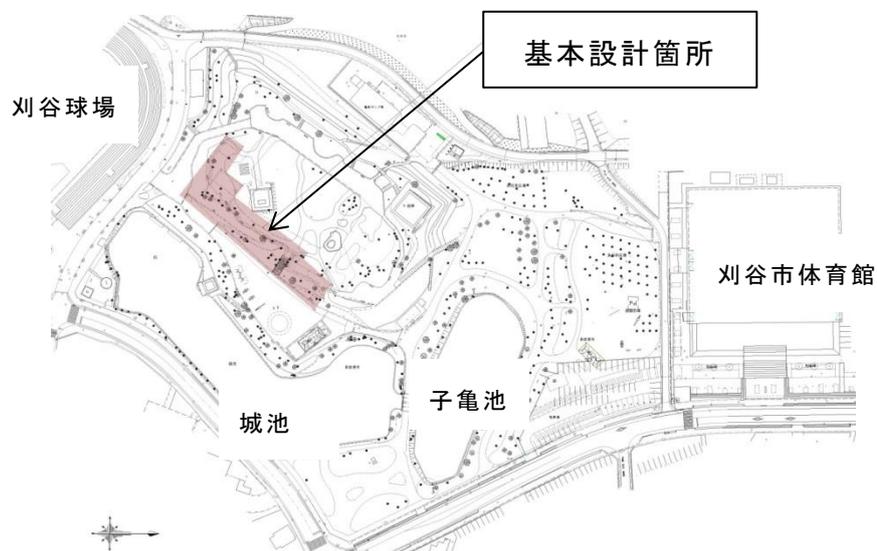


図 1 基本設計箇所図

## 3 設計方針

平成 25 年 3 月に策定した「亀城公園歴史的建造物等基本計画」を反映しつつ、平成 21 年度から 26 年度に実施された発掘調査の結果や城絵図などの分析・検証をもとに、刈谷城の復元に関する基本設計を以下の方針で行いました。

- (1) 復元根拠は、発掘調査⇒城絵図⇒文献⇒類例調査の優先順で検討します。
- (2) 復元対象時期は、江戸初期とします。
- (3) 工法・材料は、原則として復元対象時期と同等のものとしてします。
- (4) 現代工法を用いる場合は、歴史的な風致景観と整合を持たせます。
- (5) 遺構の保護・保存を最優先とします。

#### 4 亀城公園歴史的建造物等整備検討委員会について

本基本設計は、専門性の高い発掘調査の結果や城絵図等の調査結果などをもとに、検証を進める必要があることから、外部有識者を中心とした委員 12 名、オブザーバー 3 名から構成される「亀城公園歴史的建造物等整備検討委員会」を組織し、復元を予定している石垣の構造や建造物の意匠などを、検討しております。なお、この委員会は、刈谷城の復元に関して、市民の皆様により深くご理解いただくとともに、検討経過の透明性の確保を目的として、公開により開催しました（表 1、図 2）。

表 1 開催日時・経過（会場：市民ボランティア活動センター）

日程等		内容
第 1 回	平成 27 年 10 月 22 日 (木) 14 時から 16 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 刈谷城に関する発掘調査結果について</li> <li>● 歴史的建造物等に関する史料検証や整備方針について</li> </ul>
第 2 回	平成 28 年 1 月 19 日 (火) 14 時から 16 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 歴史的建造物の復元考察について</li> </ul>
第 3 回 (予定)	平成 28 年 3 月 24 日 (木) 14 時から 16 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 歴史的建造物等全体整備計画について</li> </ul>



図 2 委員会の様子

## 5 復元概要

### (1) 石垣

#### ア 石垣の検討経過

刈谷城の石垣は、明治時代の払い下げにより、解体されたことが記録されており、現在の亀城公園にはありませんが、発掘調査により、かつて石垣があったとされる地固め遺構が発見され、城絵図に描かれている石垣の存在が明らかになりました。

この発掘調査の結果や城絵図の検証とともに、類例調査として慶長期から元和期(1596～1624)に築城された熊本城や福山城などの石垣を調査し、石垣形状の検討を行いました。その結果、辰巳櫓部分の石垣高さは2丈5尺(約7.6m)(図3)、本丸内側部分の石垣高さは1間半(約3.0m)(図4)であることが確認できました。

また、「三洲苜屋城図」(図4)の記述から、多門櫓の幅が2間(約3.9m)と推定されることから、地固め遺構の配置や類例調査による石垣の法勾配と合わせて検証したところ、熊本城の石垣形状(図5)に近いことが確認できるため、刈谷城の石垣形状は熊本城を参考に設計しました。



図3 正保城絵図の内「参州刈谷城絵図」  
(1644～1648 頃) (国立公文書館所蔵)



図4 「三洲苜屋城図」(1655～1670 頃)  
(東北大学附属図書館所蔵)



図5 熊本城の石垣

イ 検討結果

- a 復元石垣面積 約 1,700 m<sup>2</sup>
- b 復元石垣高さ
  - 辰巳櫓付近 約 3.0～7.6m
  - 表門付近 約 3.4～7.2m
  - 裏門付近 約 2.6～5.6m

ウ 復元石垣平面図、断面図

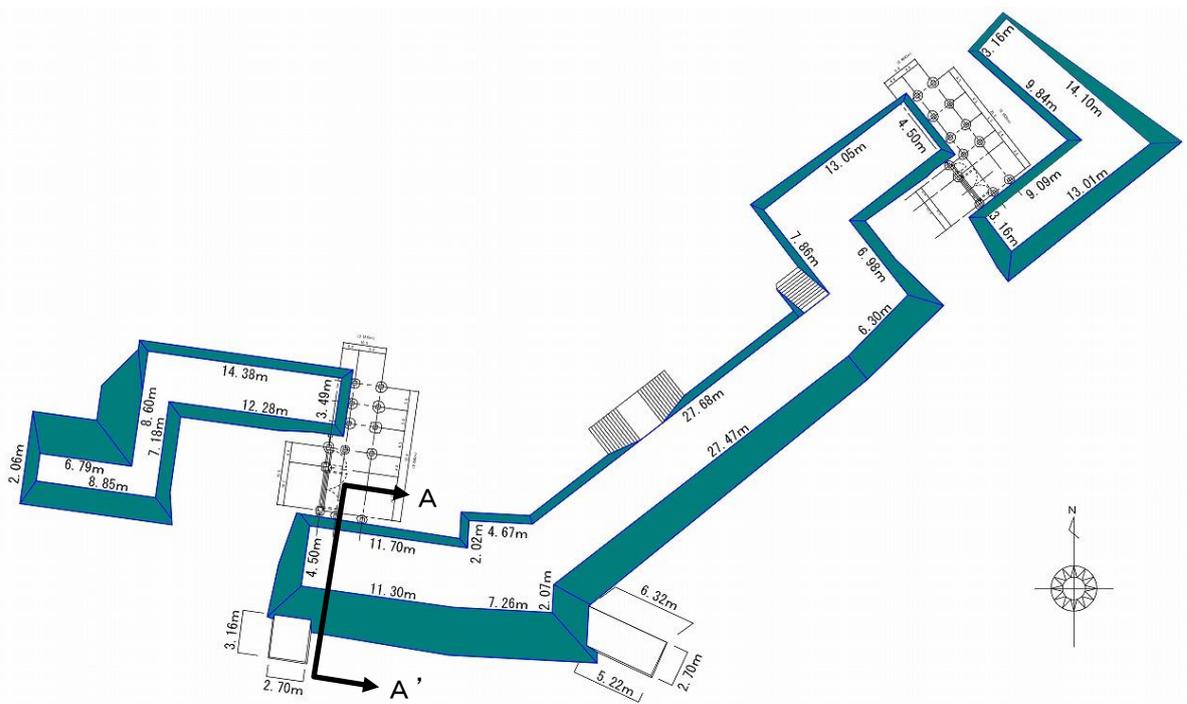


図6 復元石垣平面図

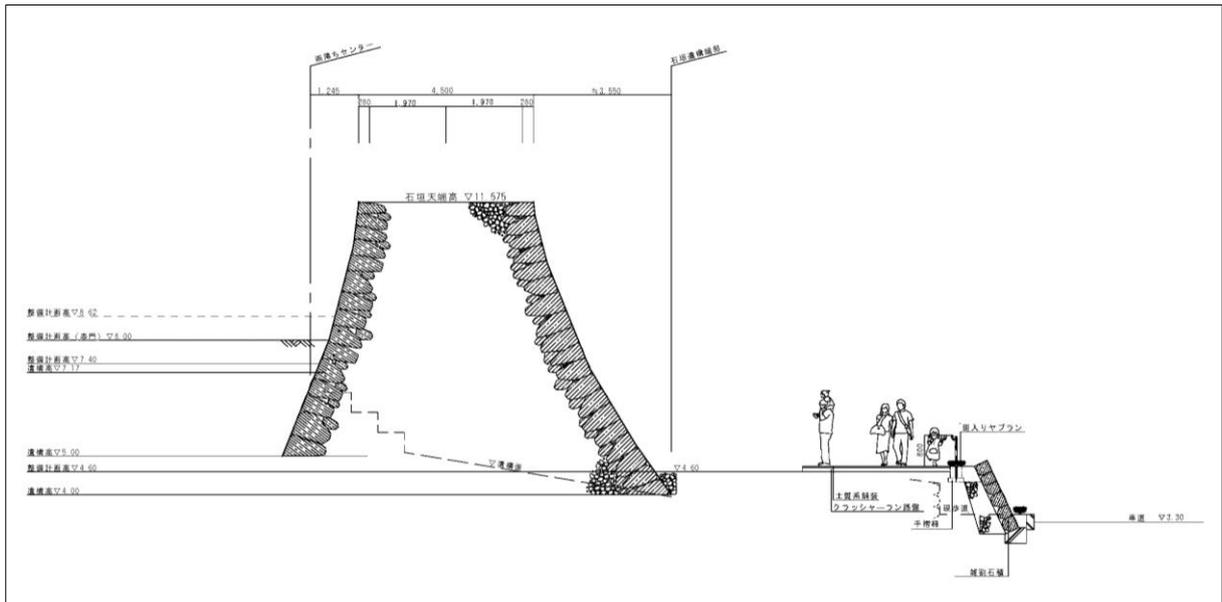


図7 復元石垣断面図 (A-A')

エ 復元石垣イメージパース

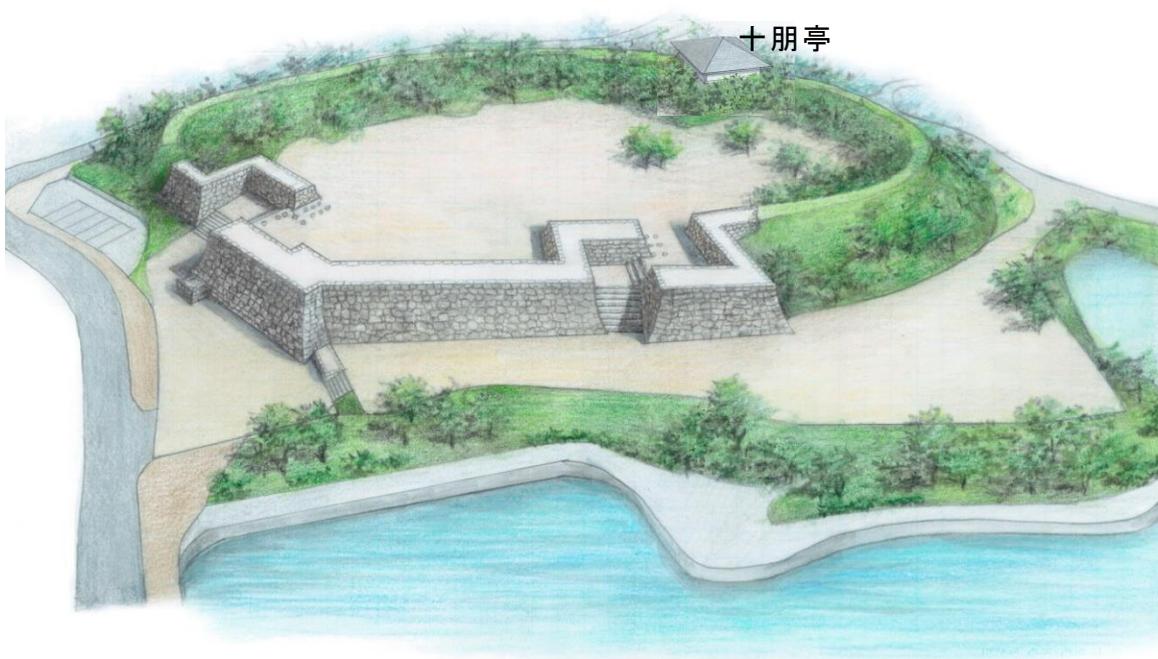


図8 復元石垣イメージパース

## (2) 建造物

### ア 建造物の検討経過

類例調査は、水野家に関する福山城（図9）を参考とするほか、類似性の高い他の城郭建造物を分析・検証し、設計しました。

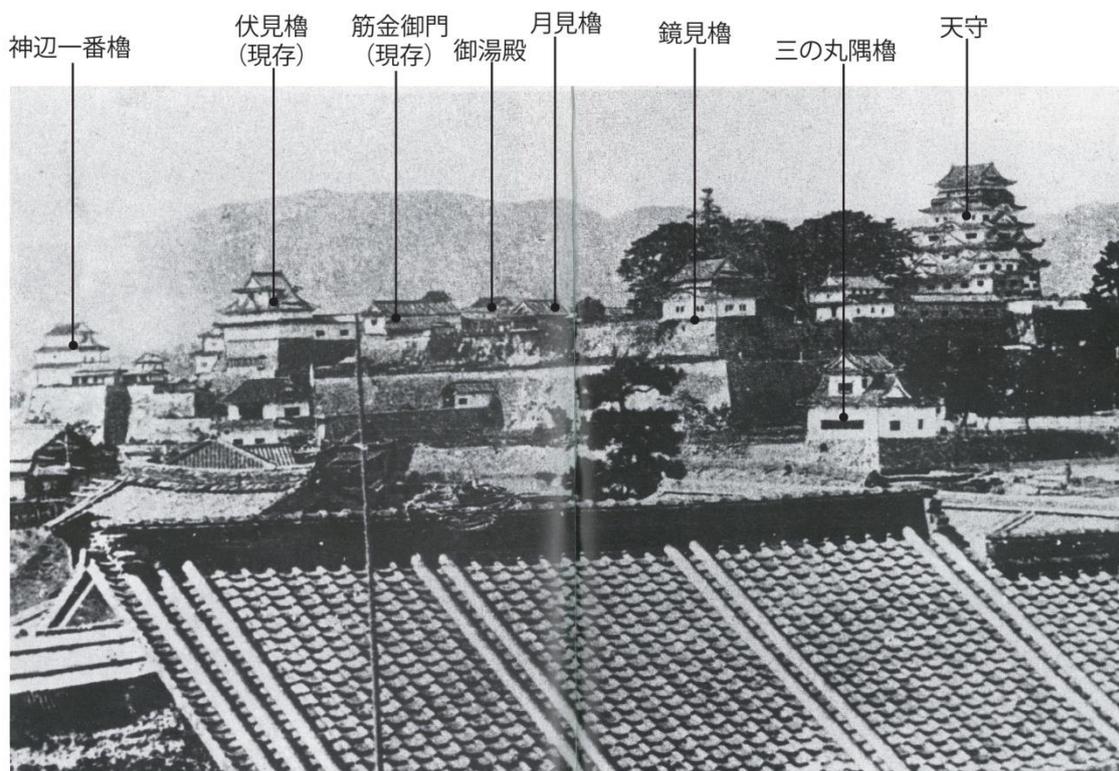


図9 福山城古写真(明治初期)

### イ 辰巳櫓

形状は、城絵図（図10、図11）では、外観2重櫓であることがわかりますが、内部は、1重の高さが多門櫓より高く描かれていること、享保17年（1732）に、三浦家が幕府に提出したとされる修復願いの城絵図「三河刈谷城図全」（図12）に、宝永地震にて倒壊した辰巳櫓は3階建てであったことが記載されていることから、2重3階櫓としました（図13）。1重の平面寸法は、石垣配置により、桁行3間×梁行3間（約5.9m×約5.9m）としました（図14）。



図10 正保城絵図の内「参州刈谷城絵図」  
(1644~1648頃) (国立公文書館所蔵)



図11 「刈谷城図」(1670頃)  
(国立国会図書館所蔵)

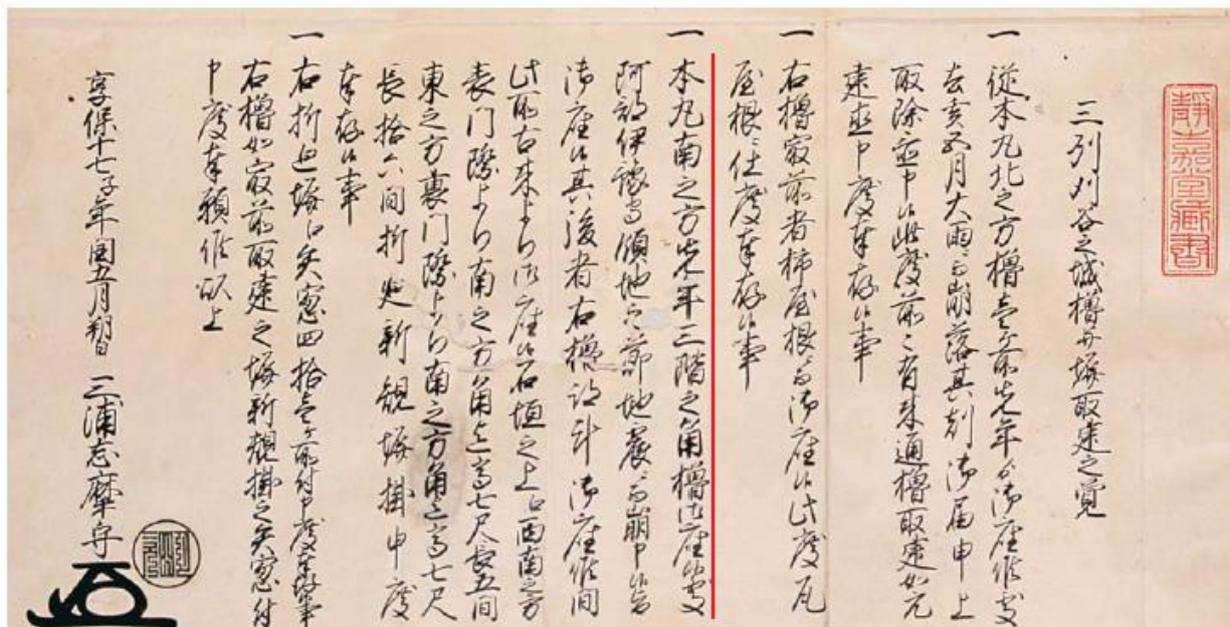


図12 「三河刈谷城図全」三浦家よりの修復願 (1732) (静嘉堂文庫所蔵)

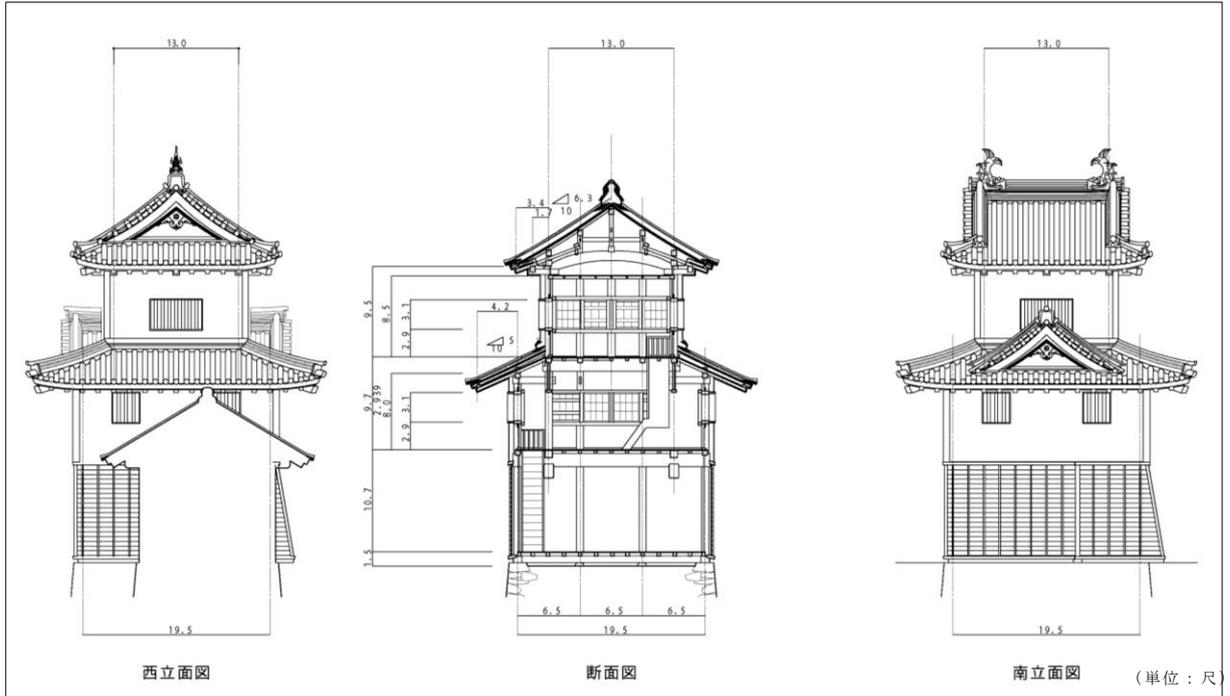


图 1 3 辰巳櫓断面·立面图

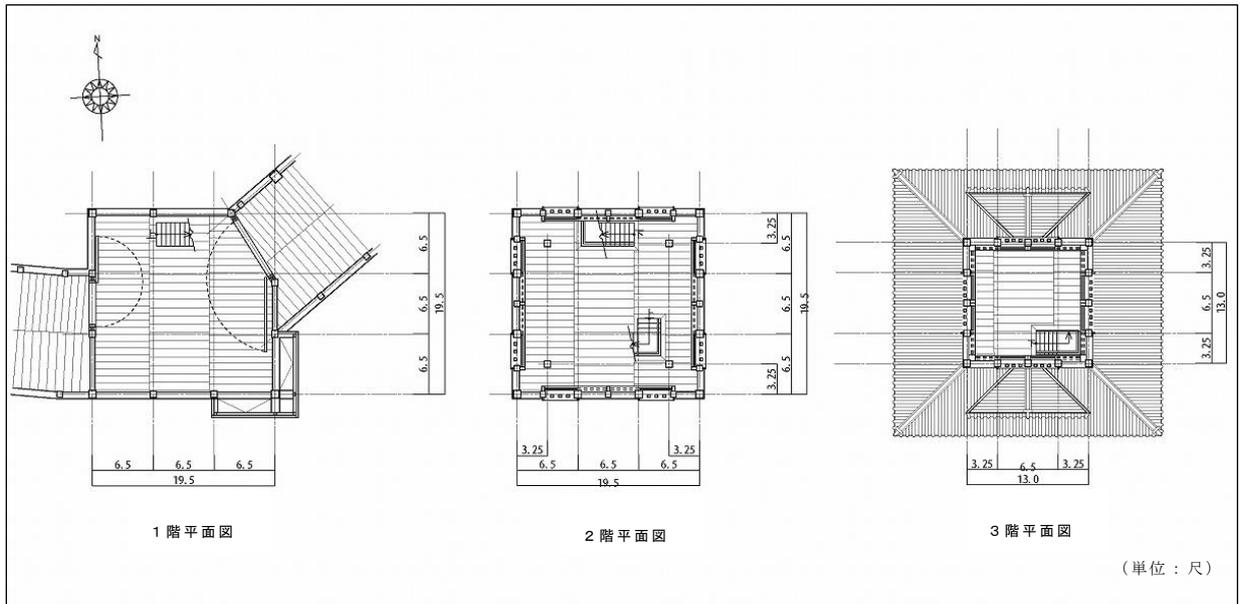


图 1 4 辰巳櫓平面图

ウ 表門・裏門

発掘調査では、表門跡、裏門跡の両方で、礎石の抜取痕が検出され（図15、図16）、表門、裏門ともに、上部櫓の一部を柱で支える形式であることが確認できました（図17、図18）。門の規模や形状は、石垣配置や類例建造物を分析・検証し設計しました（図19、図20）。

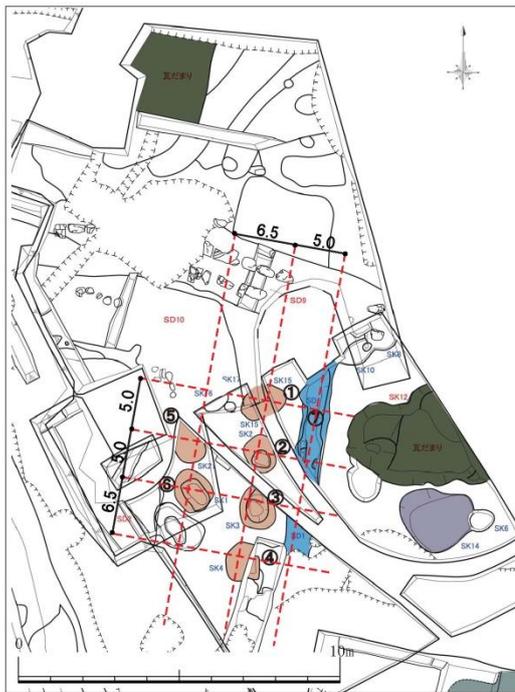


図15 表門周辺遺構図



図16 裏門周辺遺構図

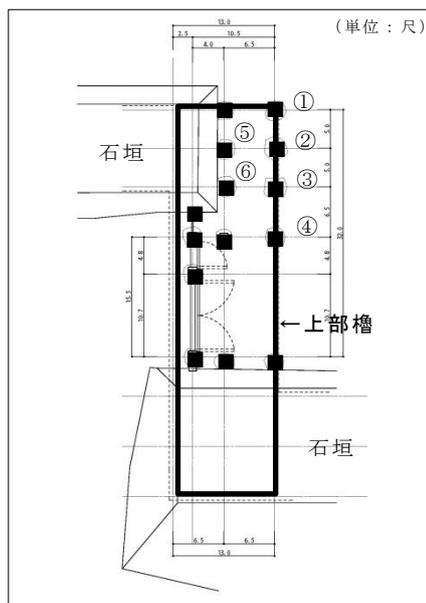


図17 表門柱位置図

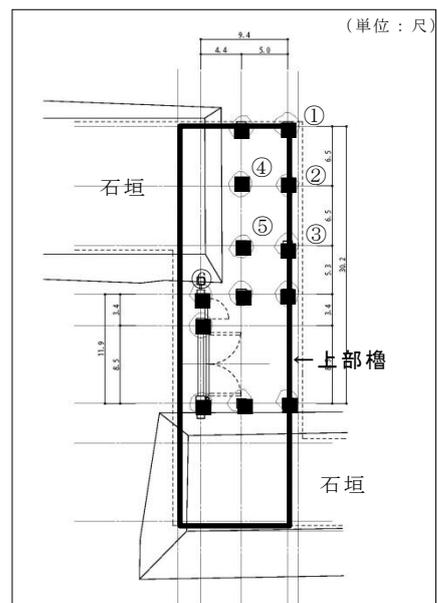


図18 裏門柱位置図

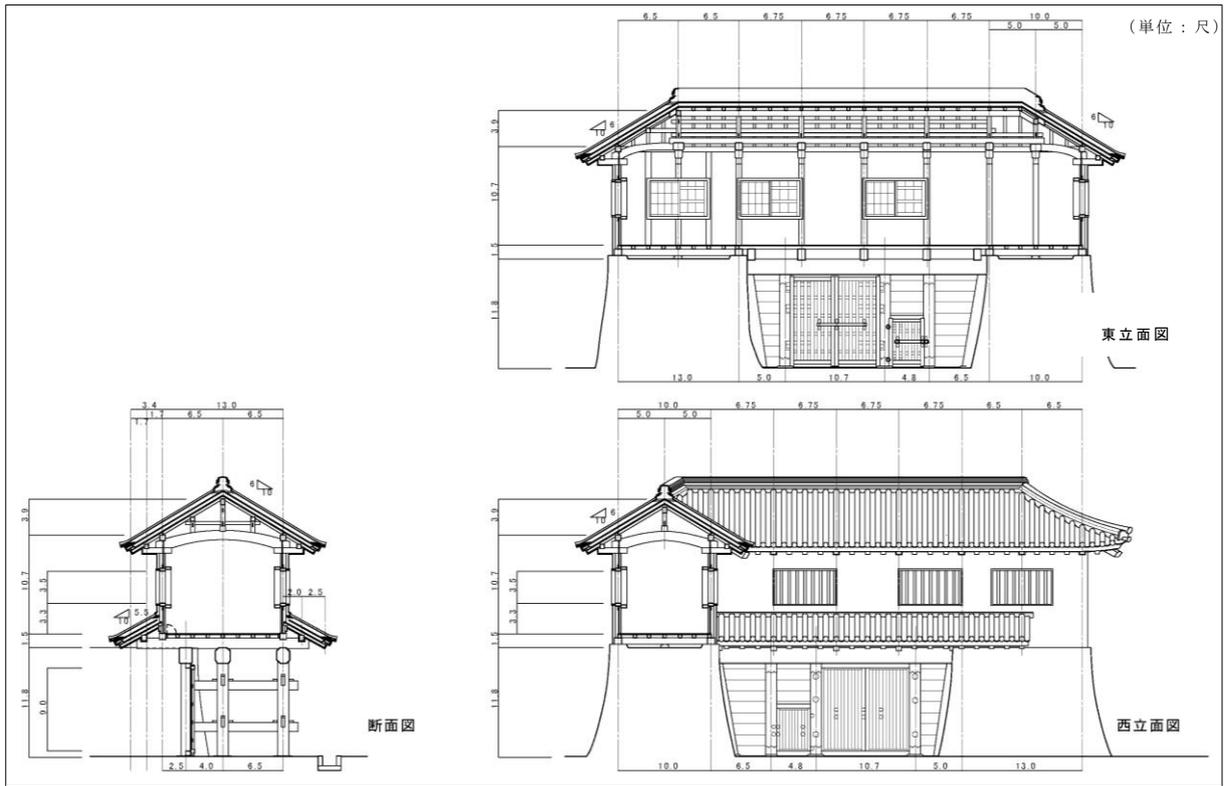


图 19 表門断面・立面图

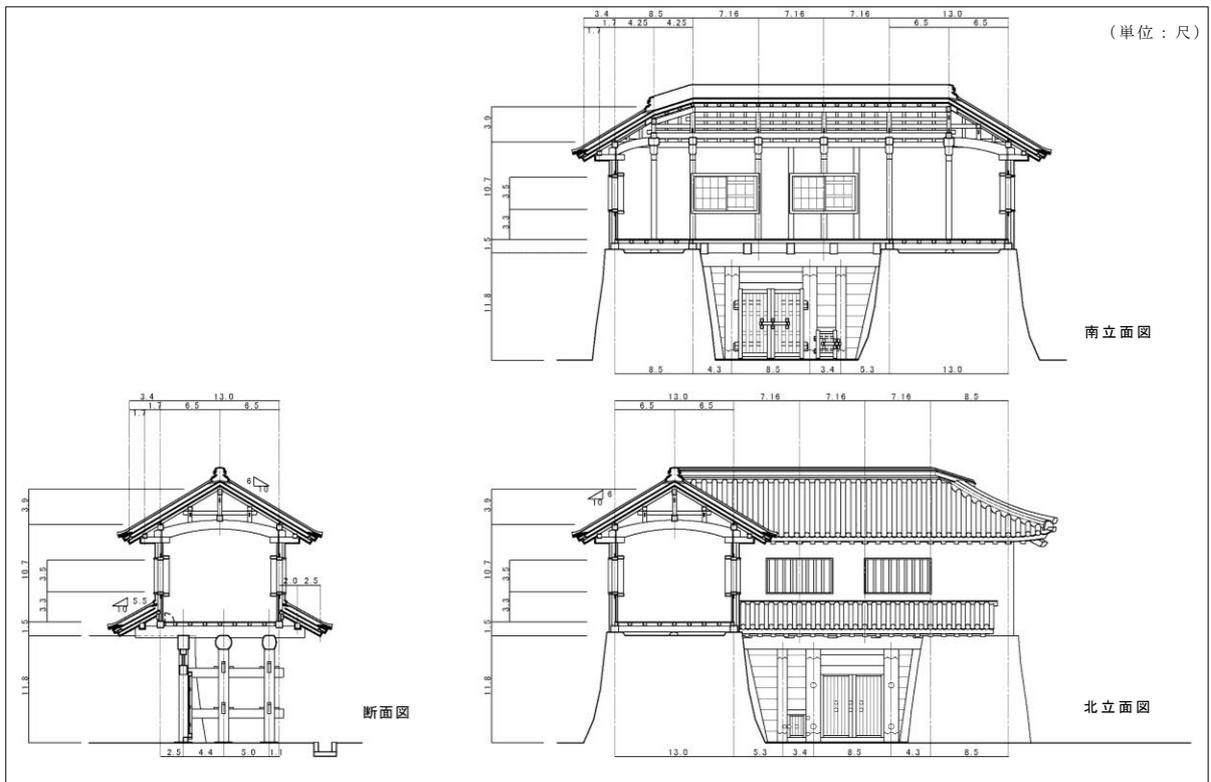


图 20 裏門断面・立面图

## エ 多門櫓

多門櫓の規模は、石垣配置から設計しました。窓の意匠や狭間に対する考え方は、城絵図や類例建造物を分析・検証し、設計しました（図21、図22）。

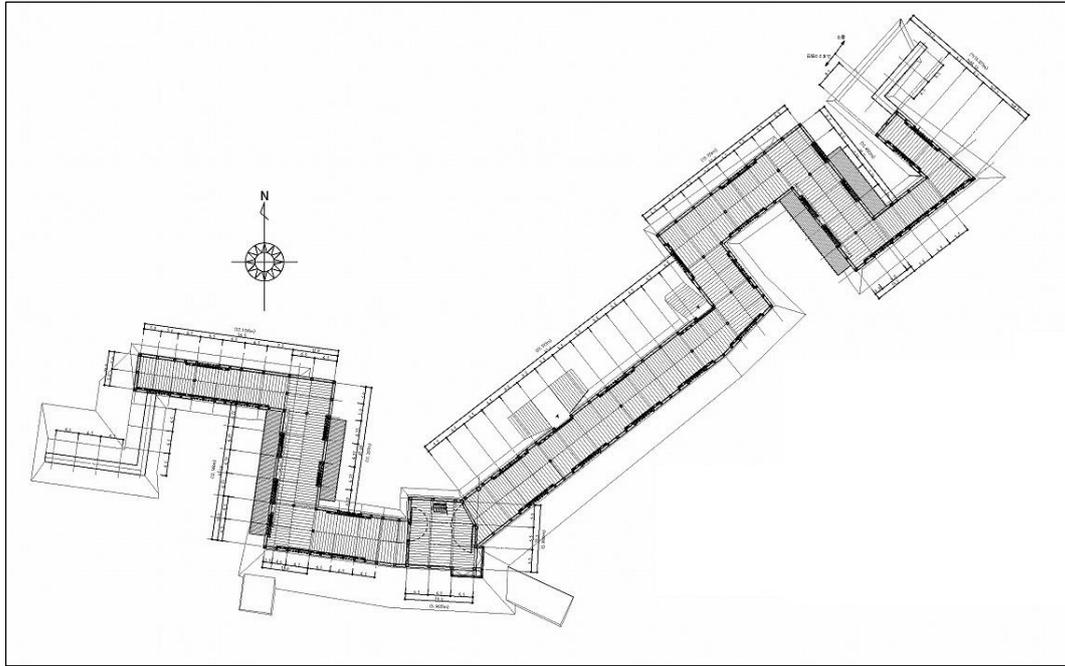


図21 刈谷城多門櫓平面図

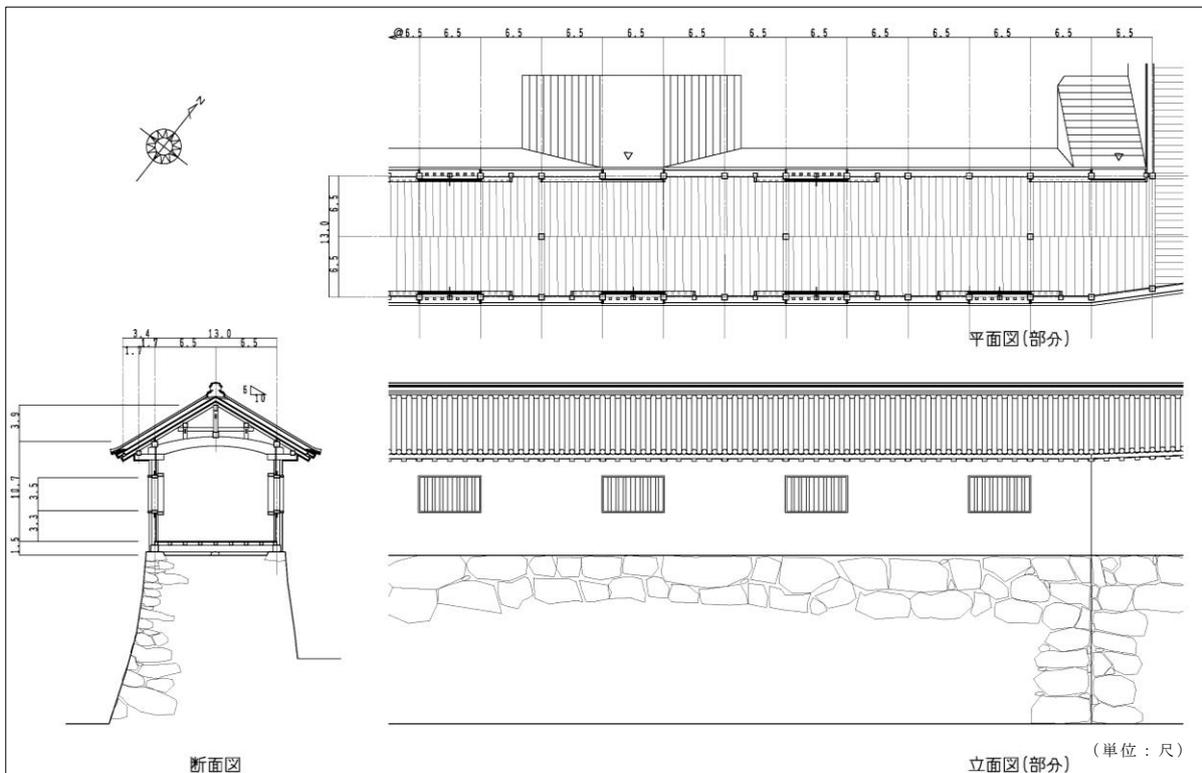


図22 多門櫓平面・断面・立面図

オ 検討結果

各建造物の寸法を整理しました（図23、表2）。

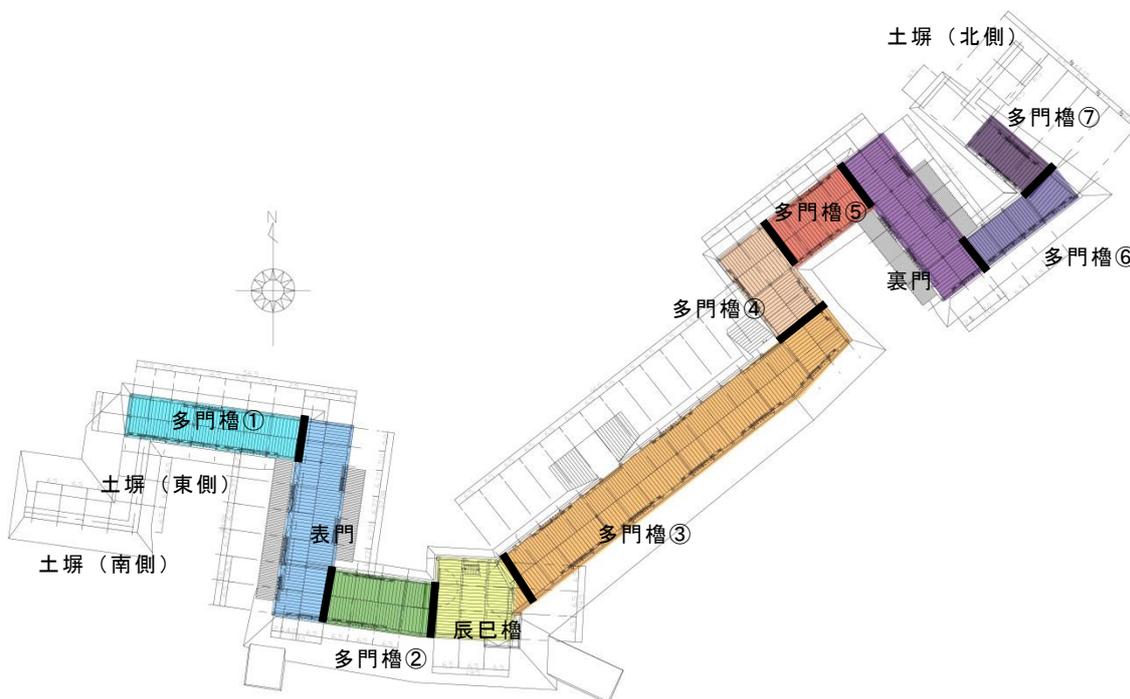


図23 各建造物の名称

表2 各建造物の寸法

建造物名称		長さ(桁行)	幅(梁間)	高さ	床面積	屋根面積
		(m)	(m)	(m)	(㎡)	(㎡)
表門	1階(門)	6.14	3.18	9.12	-	-
	2階(櫓)	15.17	3.94		59.77	105.30
裏門	1階(門)	4.33	2.85	8.79	-	-
	2階(櫓)	13.02	3.94		51.30	96.89
辰巳櫓	1階	5.91	5.91	12.40	33.33	-
	2階	5.91	5.91		34.92	49.59
	3階	3.94	3.94		15.52	40.20
多門櫓	①	13.18	3.03	4.79	39.94	71.08
	②	8.86	3.94	5.14	34.91	55.82
	③	33.48	3.94	5.14	125.18	218.36
	④	7.88	3.94	5.14	31.05	57.08
	⑤	7.88	3.94	5.14	31.05	49.64
	⑥	9.09	2.58	4.45	22.66	45.08
	⑦	6.21	2.58	4.45	15.63	36.70
土塀	東側	7.88	0.91(基底部)	2.94	-	11.80
	南側	6.89	0.91(基底部)		-	17.72
	北側	5.91	0.91(基底部)		-	16.64
延べ面積(㎡)					495.26	

カ 復元建造物イメージパース

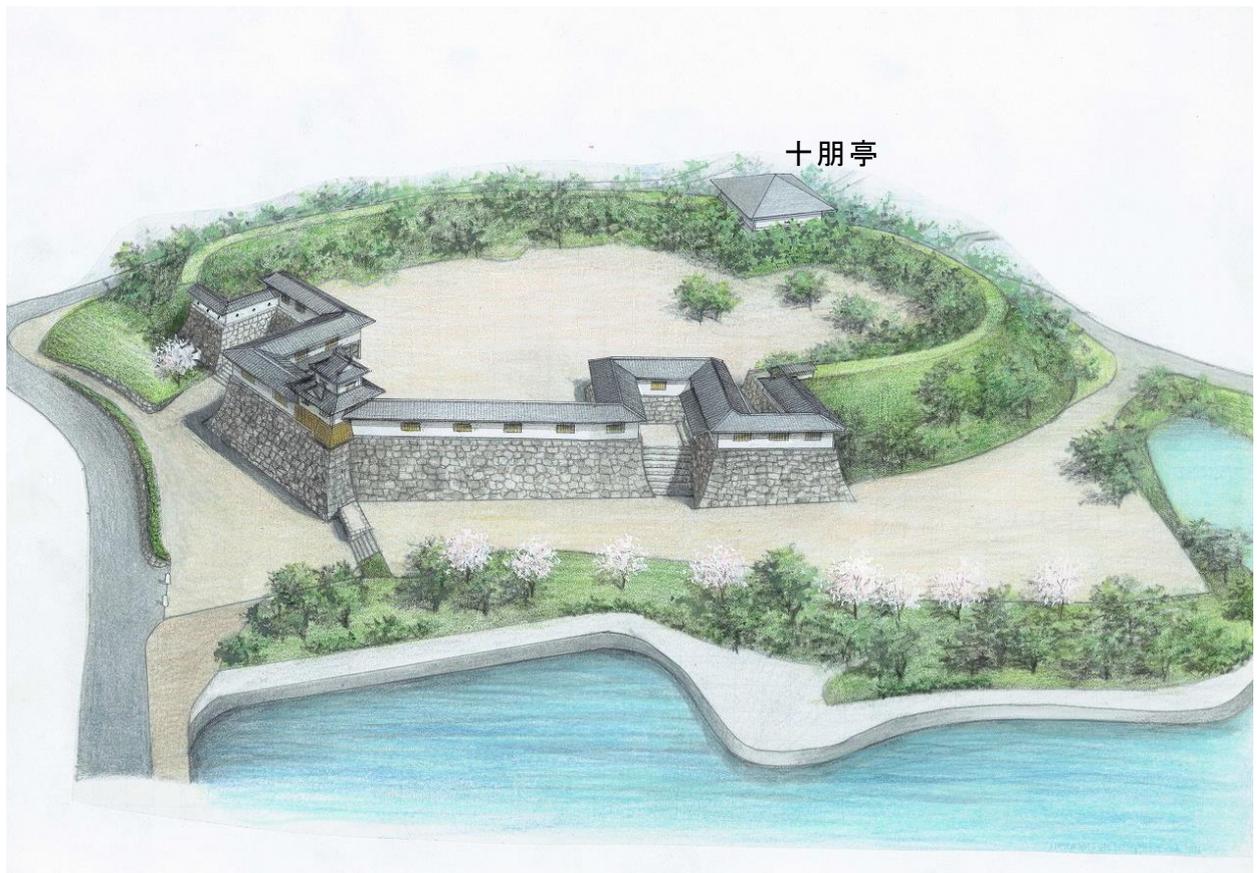


図 2 4 復元建造物イメージパース

## 6 今後の予定

平成 22 年 3 月の「刈谷市亀城公園等整備基金条例」制定時に想定していた整備内容を、辰巳櫓、多門櫓の一部、石垣の復元に変更し、平成 32 年度の完了を目指し、整備を進めるものとします（図 2 5、図 2 6）。

また、残りの建造物（多門櫓の一部、表門、裏門、土塀）の復元は、その後の社会情勢や機運の高まりなどに応じて、段階的に整備を進める予定とします。

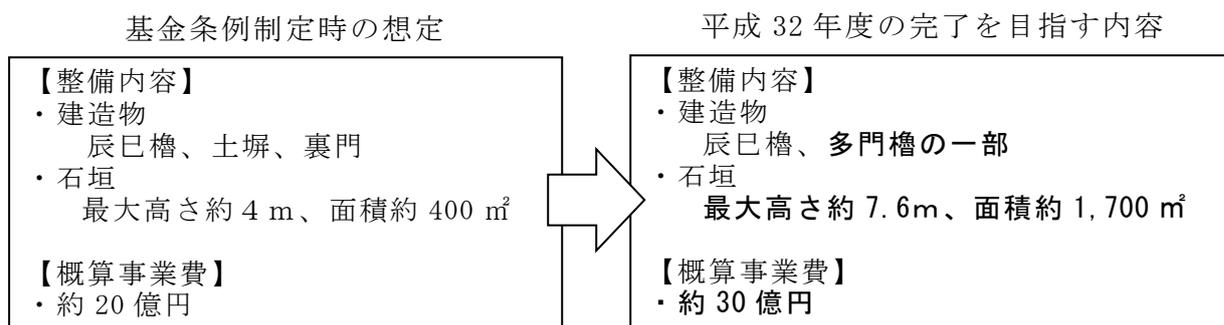


図 2 5 整備内容の変更（太字は変更点）

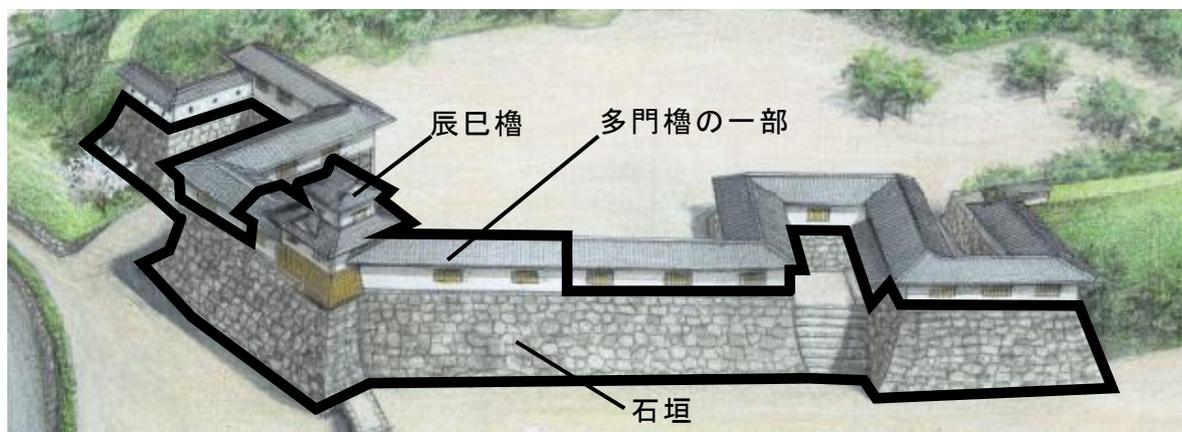


図 2 6 平成 32 年度の完了を目指す部分（太枠内部）